

定数薬品管理の検討

～セーフティマネジメントを目指して～

安藤 ゆり，青沼 志津，松川 雅子，寺田 直
西部 幸一，今井 桂子，佐々木 淳，薦田 博義

北海道社会保険病院 薬剤部

Key Words :

定数薬品管理、リスクマネジメント

はじめに

当院では、平成7年から各病棟へ注射薬の患者個別セットによる払い出しを行っている。その一方で、緊急・夜間使用に対応する為、各病棟・部署に定数薬品を配置している。これらの定数配置薬については、薬剤師が効率よく薬品管理を行うシステムは十分には整っていない。しかし、リスクマネジメントや経済面への貢献には、医薬品の適正配置と管理が重要となる。今回、薬剤部では、これらに取り組んだので報告する。

対象と方法

(1) 対象

各病棟、中央処置室を含めた10カ所の外来、内視鏡、血管造影室など院内11の部署、そして救急室である。また、院内の全救急カート12台についても、見直しを行った。

表1 対象部署

病棟	4北、4南、5北、5南、6北、6南、7北、7南
外来	中央処置室、小児科、外科、皮膚科 心臓血管外科、整形外科、泌尿器科 産婦人科、耳鼻咽喉科、眼科、救急外来
その他	血管造影室、消化管造影室、内視鏡 結石破壊室、RI、CT、MRI、放射線TV室、 心電図室、リポソーパー室、TV室
救急カート	病棟（全7台）、中央処置室、循環器外来、 救急外来、TV室、放射線

(2) 問題点

① 救急カート薬品の品目・数量・配置に統一性

がないため、薬品を使用するスタッフ間で、同じ対応をすることができない可能性があった。

- ② 定数配置薬使用時は、薬剤師による監査がなく、これを補うための情報提供が不足していた。
③ 定数配置薬の薬品管理システムが確立していなかった。

(3) 方法

使用実績、薬品の緊急性、各診療科医師の意見に基づき、注射薬、内服薬、外用薬の品目・数量を検討した。病院薬剤師会リスクマネジメント特別委員会の報告を参考に、リスクが高い定数配置薬について、現場でスタッフが情報を確認できる方法を考案した。また、薬剤師が効率よく薬品管理できるチェックリストの作成を試みた。

結果

(1) 定数配置薬について

各病棟の内服薬、外用薬は、薬品名、数量を表



図1 内服・外用定数配置薬

示した保管ケースを用意したことで、使いやすく、管理しやすい状況を実現した。(図1)これらは、毎日、頓服定数管理表を用いて処方箋を集計し、補充を行うようにした。(表2)

表2 定数薬品管理表

6北 頓服定数管理表				
薬品名	定数		定数	
アダラート(10mg)	5		ニトロゲームTTS	2
ワゾラン	3			
ニトロール	3		ホクナリンテープ(2mg)	2
アシナズ(20mg)	3		ベヒヨドガール	5
アシナズ(40mg)	3		ハチアズレ	5
メフロリン	10			
ボルタレン	10		カトレップ	5
ロキソニン	5		セルタッチ	5
ボンタール	5		MS温シップ	5
血糖剤	2			
ジヒドロコデイン(1g)	10		ボスタリン軟膏	5
アストミン	5		レスタミン軟膏	2
ボラザミン	3		ナウゼリン(30mg)	3
			グリセリン液(60ml)	5
			アズール軟膏	1
ゾロゼン(0.5g)	5			
ゾロゼン(1g)	5		●消化薬	
SM錠(1g)	5		ボルタレン(50mg)	10
			ボルタレン(25mg)	10
ブスコパン	5		ボルタレン(12.5mg)	5
アリソン	5		レシカルボン(5mg)	5
ロベニン	5		アレミンソフト(10mg)	1
カンチレジン(1g)	5		●鎮痛薬	
ブルゼニド	10		リズミー(1mg)	10
アローゼン(0.5g)	10		ハルシオン(0.25mg)	5
ラキソベロン	2		マイスリー(10mg)	5
			レンドリン(0.25mg)	5
ブドウ糖(10g)	3		ユネソジン(10mg)	5
			ホリゾン(2mg)	5
ダイアモックス錠	2		セルシン(5mg)	5
アスバラ錠	2			

注射薬に関しても見直しを行った。薬品の補充は、薬品に添付しているカードの回収時と、注射セット搬送カートの交換時に行うようにした。

救急室は、より緊急性が高く、煩雑になりやすいため、薬品の補充・管理方法の徹底が必要と考え、薬剤師が土日、祝日を含め、毎日当番制で確認することにした。

(2) 救急カートについて

薬品の品目・数量、配置を院内統一とした。

(図2) また救急カート上にカート内の薬品一覧表を設置した。



図2 救急カート

全ての救急カート内の一薬品ごとに情報カードを作成し、設置した。(図3) これは、投与速度、投与経路などの用法用量・使用上の注意を記載し

イバン®注

通常塩酸ドパミンとして1分間あたり1~5μg/kgを点滴静脈投与し、患者の病態に応じ20μg/kgまで増量することができる。

必要に応じて日局ミノ酸注射液、ブ積する。投与量は患者の血

- 1) 投与時
血管外へ漏れた場合、注射部位を中心に硬結、又は壊死を起こすことがあるので、できるだけ太い静脈を確保するなど慎重に投与すること。
- 2) 調製時
(1) pH8.0以上になると着色することがあるので、重曹のようなアルカリ性薬剤と混合しないこと。
(2) 希釈溶液として日局生理食塩液、日局ブドウ糖注射液、総合アミノ酸注射液及びブドウ糖・乳酸ナトリウム・無機塩類剤等がある。

図3 救急カート内情報カード

たもので、情報はすべて薬品の添付文書の内容とした。

(3) 注意カードについて

定数配置薬の中で、投与速度が問題となる注射薬に対して、注意カードを設置した。(図4) カードには、薬品名、規格、添付文書から抜粋した速度情報を記載し、現場のスタッフが確認しやすいよう、薬品の配置場所に設置した。



図4 注意カード

(4) チェックリストの作成

各部署定数薬品のチェックリストを作成した。(表3) 内服薬、外用薬、注射薬、テスト液、毒薬・向精神薬・麻薬、救急カート、消毒薬の過不足・保管状況を項目とした。各部署に、担当薬剤師を決め、月2回、チェックリストを用いて、確認を行い、最終的に薬剤部長に報告を行うこととした。

(5) 定数薬品一覧ファイル

院内定数薬品の一覧ファイルを作成した。定数配置薬の把握が容易になり、定数更新も随時行えるようになった。一覧表を各部署別に作成し、データ管理を行うようにした。

表3 チェックリスト

定数配置薬確認表			
確認日	年 月 日	部署	薬剤師
項目		評価	備考
内服・外用	定数の過不足	良 不良	
	有効期限	良 不良	
	劇薬の表示・区別	良 不良	
	保管状況(温度、遮光等)	良 不良	
	麻薬の保管状況	良 不良	
	向精神薬の保管状況	良 不良	
	残薬の返却状況	良 不良	
注射	定数の過不足【SPDより報告】	良 不良	
	有効期限【SPDより報告】	良 不良	
	劇薬の表示・区別	良 不良	
	保管状況(温度、遮光等)	良 不良	
	毒薬・向精神薬の保管状況	良 不良	
	毒薬・向精神薬受払簿の記載状況	良 不良	
	抗生剤テスト液の期限切れ	良 不良	
	救急カート内薬品の過不足	良 不良	
	救急カート内薬品の保管状況	良 不良	
その他	消毒薬の保管状況	良 不良	

考 察

救急カート薬品目、数量、配置を院内統一としたことで、使用するスタッフが、どの部署に行っても同じ対応ができるようになり、機能性の向上を図ることができた。なお一部の救急カートは、医師の依頼を受け、診療科特有の薬品を追加することで、特殊性に対応している。また、情報カードをつけるこ

とでリスクの軽減を目指すことができたと考えられる。定数配置薬整備に、医師、看護師、薬剤師が連携をとることで、実情に即したものとなった。また、このことは、不良在庫を減らし、薬品の期限切れを無くすことにつながった。その一方で、治療方法の変化に対応し、定期的な見直し作業の必要性も感じた。

おわりに

高頻度で使用される定数配置薬に対しては、個人別調剤と異なり、過誤がおきやすい状況にあるといえる。ヒューマンエラーの回避のため、更なる薬品管理システムを検討していきたい。

参考文献

- 1) 日本病院薬剤師会リスクマネジメント特別委員会：医薬品の事故ゼロにむけて、月刊薬事、3月臨時増刊号
- 2) 湯本哲郎、松本 茂、水上義明：注射薬投与速度について考える②、週間薬事新報、第2263号、P25～30、2003